

宇佐美誠次郎教授略年譜

(出版者 / Publisher)

法政大学経済学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

経済志林 / The Hosei University Economic Review

(巻 / Volume)

52

(号 / Number)

3・4

(開始ページ / Start Page)

231

(終了ページ / End Page)

233

(発行年 / Year)

1985-03-15

宇佐美誠次郎教授略年譜

- 一九一五（大正四）年 一月 東京府荏原郡目黒村に生まれる
- 一九二六（大正一五）年 三月 東京府南葛飾郡隅田村隅田小学校五年終了
- 一九三一（昭和六）年 三月 東京府立第七中学校（現在、墨田川高校）卒業
- 一九三四（昭和九）年 三月 武蔵高等学校文科乙類卒業
- 一九三七（昭和一二）年 三月 東京帝国大学経済学部卒業
- 一九三九（昭和一二）年 四月 東京文化学院東京研究所（現在、東京大学東洋文化研究所）助手となる
- 一九四二（昭和一七）年 四月 同 研究所研究員となる
- 一九四三（昭和一八）年 四月 治安維持法違反容疑により逮捕・投獄される。翌年七月、保釈。同九月、懲役二年執行猶予五年の判決。この間、起訴により東方文化学院を解職される
- 一九四四（昭和一九）年 七月 臨時召集により補充兵として東部八三部隊に入隊
- 一九四五（昭和二〇）年 九月 臨時動員下令、範三八三二部隊に転属
- 一九四七（昭和二二）年 一月 召集解除
- 一九四七（昭和二二）年 一月 日本銀行調査局特別調査室嘱託となる
- 一九四七（昭和二二）年 一月 法政大学経済学部講師となる（財政学および専門部・財政要論担当）

- 一九四八（昭和二三）年 四月 北海道大学講師となる（金融論担当）
- 一九四八（昭和二三）年 六月 法政大学経済学部教授となる（財政学担当）
- 一九四九（昭和二四）年 一二月 日本銀行嘱託を解任される
- 一九四九（昭和二四）年 四月 工学院大学講師となる（経済学担当）
- 一九五〇（昭和二五）年 一〇月 大原社会問題研究所研究員となる
- 一九五〇（昭和二五）年 一月 法政大学大原社会問題研究所理事となる
- 一九五二（昭和二七）年 一〇月 東京大学経済学部講師となる（財閥論担当）
- 一九五七（昭和三二）年 四月 法政大学在外研究員派遣制度によりドイツへ留学（一年間）する。その間に、ベルリン・フンボルト大学、ライプツィヒ・カール・マルクス大学、ハレ・マルティーン・ルター大学、イエーナ・フリードリヒ・シラー大学において現代日本経済論の講義をする
- 一九六〇（昭和三五）年 三月 経済学博士の学位を授与される
- 一九六〇（昭和三五）年 四月 法政大学経済学部長（大学院議長兼任）となる
- 一九六三（昭和三八）年 三月 法政大学経済学部長を辞任する
- 一九六三（昭和三八）年 六月 日本ドイツ民主共和国友好協会設立に参加、事務局長（ついで理事長）となる
- 一九六四（昭和三九）年 七月 法政大学図書館長となる
- 一九六六（昭和四一）年 四月 法政大学大原社会問題研究所所長となる
- 一九六六（昭和四一）年 九月 法政大学図書館長を辞任する
- 一九六八（昭和四三）年 一二月 日本ドイツ民主共和国友好協会代表としてドイツ民主共和国を訪問する
- 一九六八（昭和四三）年 四月 静岡大学文理学部講師となる（財政学担当）
- 一九六八（昭和四三）年 四月 法政大学大原社会問題研究所所長を辞任し、常務理事となる

- 一九七二（昭和四七）年一〇月 日本ドイツ民主共和国友好協会代表としてドイツ民主共和国を訪問する
- 一九七三（昭和四八）年四月 法政大学大原社会問題研究所所長となる
- 一九七四（昭和四九）年四月 同 所長を辞任し、常務理事となる
- 一九七六（昭和五一）年四月 法政大学大原社会問題研究所所長となる
- 一九七八（昭和五三）年四月 同 所長を辞任し、常務理事となる
- 一九八〇（昭和五五）年三月 日本ドイツ民主共和国友好協会会長となる
- 一九八一（昭和五六）年六月 日本ドイツ民主共和国友好協会代表としてドイツ民主共和国を訪問する
- 一九八三（昭和五八）年四月 法政大学経済学部DDR経済論（二年間）を担当する